

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実  
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造  
 基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 北海道林木育種場旧庁舎維持管理経費

[0492]

部名	教育部	事業開始年度	平成13年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>北海道林木育種場旧庁舎</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>北海道林木育種場旧庁舎を適正に管理する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>(社)シルバ-人材センター- に管理を委託し、施設利用者の把握、清掃などを行ってもらう</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	敷地面積	m <sup>2</sup>	5,053.53	5,053.53	5,053.53	5,053.53
対象指標2	延床面積	m <sup>2</sup>	1,388.09	1,388.09	1,388.09	1,388.09
活動指標1	開館日数	日	114	117	116	116
活動指標2						
成果指標1	利用者数	人	292	330	630	400
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	2,484	2,508	2,585	2,832
正職員人件費 (B)		千円	836	1,245	1,209	1,222
総事業費 (A) + (B)		千円	3,320	3,753	3,794	4,054

費用内訳	
22年度	需用費 376千円、役務費 70千円、委託料 2,123千円、使用料及び賃借料 15千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	当庁舎は昭和2年に建築されたもので、大正、昭和初期の建築物、特に庁舎建築の中で現存するものが少なく歴史的建造物としての価値があることから、現状の老朽化を押さえつつ、外観については建設当時のイメージに沿った復元が必要。
--------	--	-------------	--

## 22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・  
根拠は？

明治時代から、野幌国有林において、北海道林業に係わる研究が広く行われ、この旧庁舎は昭和年代に入ってから林業研究の要となったことから、江別市の歴史的背景を特徴づける重要な建物であり、保存継承は行政の役割である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・  
根拠は？

文京台地区に広がる緑の丘陵地のほぼ頂部に位置するこの建物は、国道12号を札幌方面から江別市内へ向かう車中から遠望できる、江別市の貴重なランドマークのひとつであり、市の歴史を語り継ぐ貴重な歴史的景観でもあることから、その存在価値は高い。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・  
根拠は？

保存を目的に取得し改修を実施しているため消防法の規定等により、一般開放に規制があり、効果的な活用が図られる状態とはなっていない。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は？

建物の整備改修により消防法をクリアし、子供から高齢者までを対象とした自然体験や創作活動の拠点として、野幌森林公園を象徴する建物となることを長期的には目指すが、改修等には莫大な経費を要することから、当面は現状維持的な利用（土・日・祝日の休憩室等の開放、文化財整理室としての利用など）にとどまらざるを得ない。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・  
根拠は？

来館者が少ないことから、管理（窓口対応）と館内清掃を同一人が兼ねて行うこととし、委託料の節減を図っている。